

水素情報館東京スイソミル展示改修 基本方針

1 改修のコンセプト

- (1) 幅広い都民が、水素エネルギーについて楽しく学び、理解を深められる施設となること。
- (2) 水素社会の現在地と将来像を分かりやすく伝える施設となること。
- (3) 施策の進展に合わせて、展示内容を継続的に更新できる施設となること。
- (4) 長期にわたり安全かつ快適に利用でき、保守・更新及び拡張が容易な施設となること。
- (5) 来館者の属性に応じた学習体験を提供できる施設となること。

2 来館ターゲット及び展示効果

本施設の主な来館ターゲット及び期待する展示効果は、次のとおりとする。

(1) 子ども（小学校高学年及び中高生等）

主に社会科見学等の団体利用を想定する。水素の基本的な性質・安全性及び脱炭素社会において水素が必要とされる理由を、見て触れる体験を通じて理解し、東京都における水素活用の取組を知ることで、水素エネルギーや脱炭素社会に向けた取組への興味・関心を持つこと。

(2) 一般の大人

主に一般開放時の個人利用を想定する。生活と水素との接点を体験し、東京都の施策・取組を知ることで、水素を暮らしに関わる身近なエネルギーとして理解すること。

(3) 事業者及び国内外からの視察者

水素の社会実装の現状と将来像及びこれを後押しする東京都の施策を知ることで、水素関連事業への参画やビジネス機会の検討の契機とすること。

3 運営形態

- (1) 運営は、学校・企業等の団体来館者を主軸とし、予約制・アテンド付きを原則とする。
- (2) 一般開放は、夏休み等の長期休暇期間など、時期を区切って行う。
- (3) 団体来館者と一般来館者を同時に受け入れることは想定しない。

4 展示構成

各階の構成は次のとおりとする。なお、別紙「イメージ図」に示すゾーニングは、参考イメージであり、提案上の必須要件ではない。

(1) 1階 展示室

ア 1階の利用シーン

展示室（水素に関する情報及び実機展示）

イ 1階における必須要件

(ア) 展示内容を提案する際に含めるべき要素

- ① 水素を活用する意義

気候変動対策・エネルギー安全保障の文脈で「水素の必要性」を伝える。

② 水素の特性と基礎技術

水素の性質や製造、貯蔵方法などの基礎技術を伝える。

③ 水素の社会実装

東京水素ビジョンや都の取組状況に連動する内容を伝える。

(イ) 来館者に応じて（小学生、中高生、大人、外国人など）説明内容を切り替えられること。

なお多言語対応の範囲は、英語、中国語（簡体字）、韓国語を基本とする。

(ウ) 「③ 水素の社会実装」は、デジタル技術を活用した展示とし、施策の進展に合わせて内容を継続的に更新できる内容とすること。

(エ) 以下の既存什器は原則活用すること。

・外部給電装置及びその説明展示（FC スタックを含む。）

・エネファーム及び説明用デジタルサイネージ

(オ) 倉庫内の水素蓄電エネルギーマネジメントシステム（以下「EMS」という。）で活用されている解説映像と連動する要素を展示に組み込むこと。

(カ) EMS への動線を踏まえた提案を行うこと。

(キ) 展示は、実機・実物・模型等を主体とした体験型展示と、文字・映像等を主体とした情報展示をバランスよく構成すること。なお、実機・実物等に映像演出等を組み合わせた展示は、体験型展示として扱うこと。

(ク) 展示物及び什器は、来館者が安全に利用できること、想定される利用に耐える耐久性を有すること及び日常的な保守・点検や部分的な更新・入替えが容易であることに配慮すること。

(2) 2階 ワークショップエリア・講義（会議）エリア

ア 2階の利用シーン

団体来館が参加できるワークショップ、会議室、団体研修、休憩

イ 2階における必須要素

(ア) 団体来館者の人数、属性、目的に応じてレイアウトを組み替えられること。

(イ) 多様なワークショップの開催に対応できること。

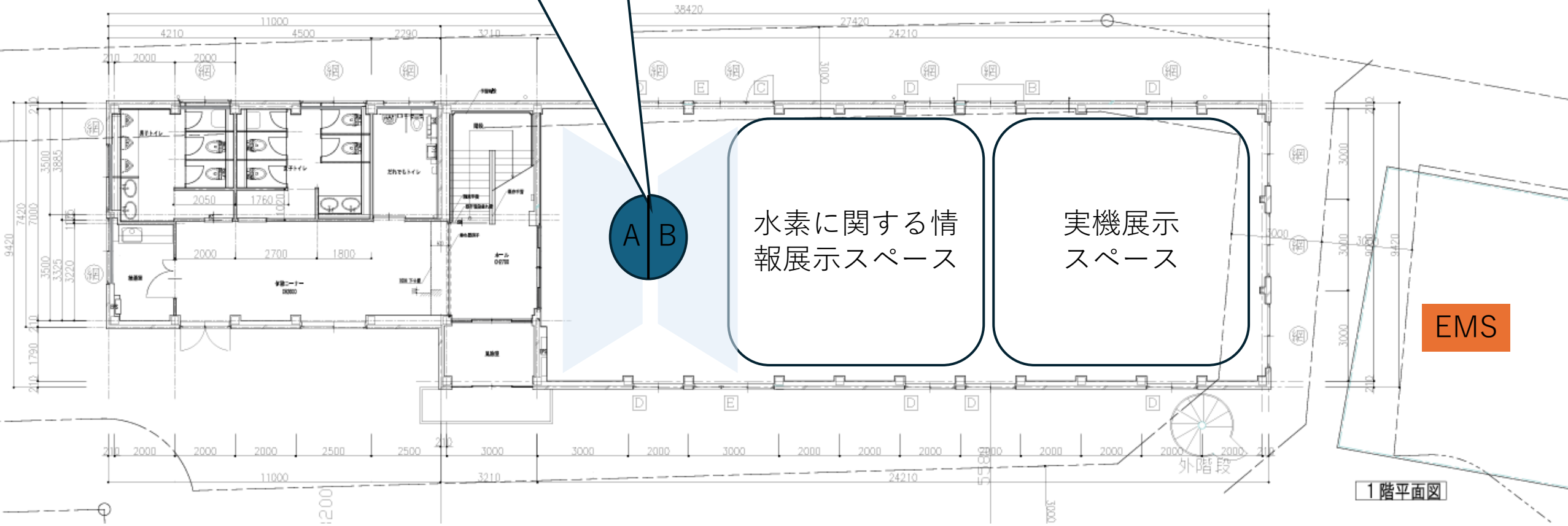
(ウ) 少人数から 50 名程度までの利用が可能であること。

(エ) 映像出力が可能であること。

(オ) リラックス感があり、無機質な雰囲気を持たない会議室の構想

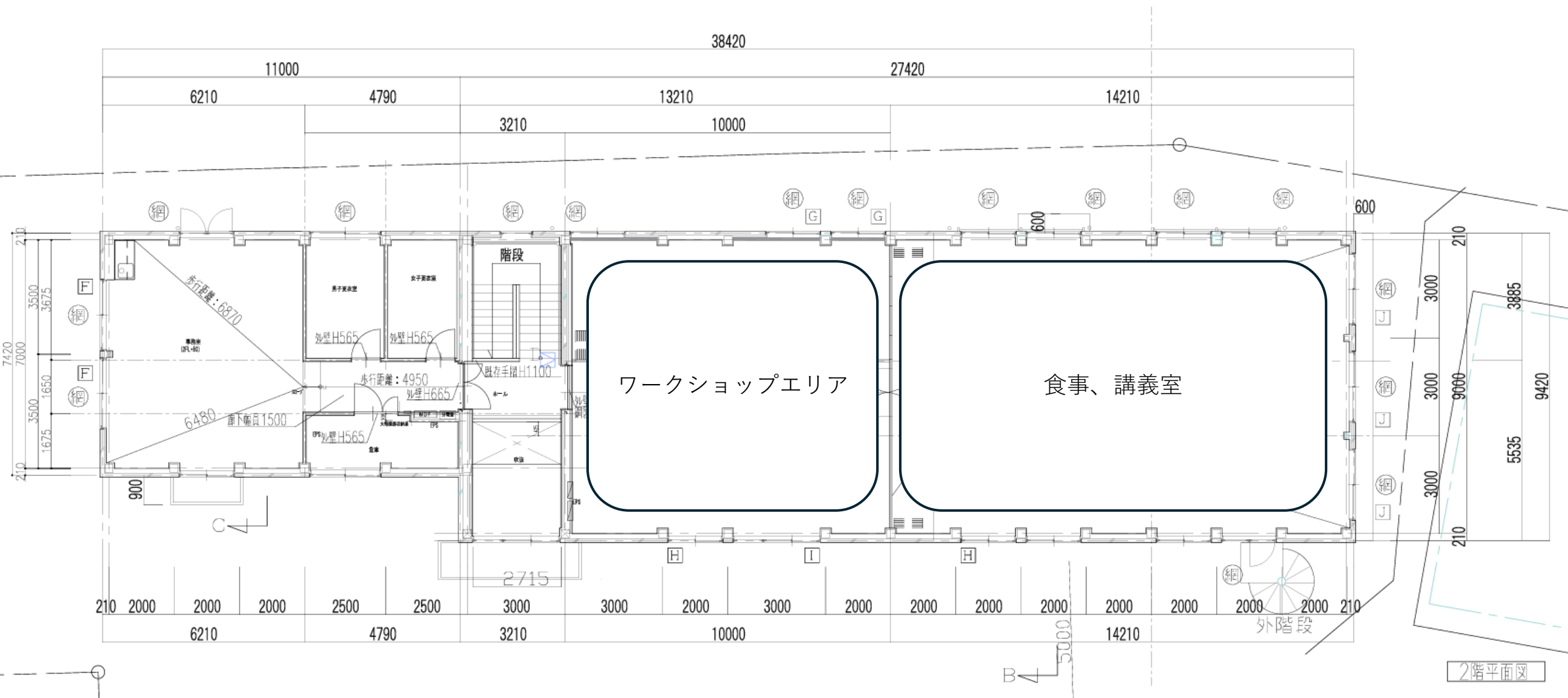
1階

指向性音声
A (導入部分) / B (別映像)



1階平面図

2階



2階平面図